

論文要旨

質的研究を用いた日本の高等学校英語 学習における動機減退とその回復の解明

山崎 和佳奈（経済学部 4 年）

指導教員：志村 明彦

本研究では、高等学校での英語学習における動機減退要因及び動機減退からの回復要因についての解明を行った。多くの先行研究においては、そうした動機減退要因及びその回復要因が「何」であるかという点に主眼が置かれやすく、それらの要因に影響を与える背景や要因間の関係性についての解明はあまり行われてこなかった。そこで本研究においては質的手法、具体的には被験者に一定程度の回答の裁量を持たせる半構造化面接を主に用いた実験研究を行い、被験者から柔軟な回答を引き出すことで、要因の抽出のみならずそうした背景や関係性を明らかにすることを試みた。また先行研究に多く見られた課題点として、研究対象時期（主に高校時代）と実験時期（大学時代）との差が大きく被験者の発言が必ずしも研究対象時期の現状を反映しているとはいえないことが挙げられた。そこで本研究では筆者が高校生にアクセスがあることを活かし、高校生に高校時代の経験を直接問うこととした。被験者は進学校である都内の私立中高一貫女子校の高校 2 年生 8 名であり、半構造化面接を用いて動機減退要因及び動機減退からの回復要因について彼女たちの経験を問うた。

その結果、動機減退要因として「学習内容の嫌悪」「学習内容の多さ」「学習

内容の難しさ」「学習内容のつまらなさ」「成績の悪さ」「周囲の環境」「たるんだ態度」「speaking への苦手意識・嫌悪」「教員の指導内容への不満」の9つの要因、動機減退からの回復要因として「学習内容の面白さ・楽しさ」「『勉強』自体への意識の高まり」「成績の上昇」「周囲の雰囲気」「教員の能力・親しみ」「周囲からの刺激」「speaking・listening の上達を目指す」「speaking・listening の成功体験」「大学入試での必要性」の9つの要因が抽出された。これらの要因を導出するにあたり、より具体的内容で構成される要因を動機減退要因に関して22個、動機減退からの回復要因に関して23個抽出した。また被験者の発言からそれらの要因間の関係性を導き、動機減退要因及び動機減退からの回復要因のそれぞれについてその関係性の図示化を試みるとともに、要因に影響を与えた被験者の背景についても検証した。そして最後に、本研究において抽出された要因がどれほど普遍性をもつのかを先行研究との比較を通して考察した。